

平成21年度第1回市史編さん審議会会議録（公開用）

- 1 日時 平成21年10月23日（金）  
午後1時30分から午後2時30分まで
- 2 場所 中央図書館会議室
- 3 出席者等  
審議会委員  
青木更吉委員 栗山秀純委員 下津谷達男委員 清藤一順委員  
友金肇委員  
（欠席：小川浩委員 鈴木仲秋委員 堀部昭夫委員  
村田一二委員 山田友治委員）  
事務局  
海老原生涯学習部長 川根博物館長  
山口博物館次長 金子学芸係長 増崎主任学芸員  
北澤主任学芸員 渡部調査員  
傍聴者 なし
- 4 議題等  
（1）平成20年度市史編さん事業報告について  
（2）平成21年度市史編さん事業計画について  
（3）その他
- 5 議事要旨

（事務局）

平成21年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。  
配布資料の確認。

本審議会は、平成21年度になり初めての開催となります。平成21年度4月1日付けで機構改革に伴い人事異動がありましたので館長より職員の紹介をいたします。

（館長）

職員紹介・あいさつ

（事務局）

続きまして、本来であれば教育長から皆様にご挨拶をさせていただくところですが、教育長は本日所用により出席できませんので代わって生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

（生涯学習部長）

あいさつ

（事務局）

ありがとうございました。次第を進行させていただきます。

「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

(会長)

あいさつ

なお、本日の会議につきましては、委員10名のところ5名様のご出席をいただいておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を申し添えます。

では、次第により進行させていただきます。

それでは、議題(1)平成20年度流山市史編さん事業報告について事務局から説明願います。

(事務局)

#### 平成20年度市史編さん事業報告

- ① 市史編さん審議会は平成20年5月20日(火)と平成21年3月19日(木)の2回開催させていただき、委員の皆様の出席をいただきました。
- ② 市史編集委員会は平成20年9月19日(金)と平成21年2月4日(水)の2回開催いたしました。1回目は原始・古代の原稿及び全体の構成について協議を行いました。2回目では1回目の会議で指摘を受けた事項について調整を行った原稿について助言・協議をいたしました。
- ③ 古文書講座は初心者を対象として、平成20年5月11日・平成20年5月25日・平成20年6月8日・平成20年6月22日の計4回で延べ144名の参加をいただきました。講師は成城大学民俗学研究所研究員の榊原史子氏を招いて実施いたしました。教材は、博物館に収蔵しております、根本家文書の「根本家日記」から元治元年「日本国まれなる事柄を記す」を使用いたしました。本講座では、文字の解説と併せて元治元年(1864年)当時の世相が流山に及ぼした影響について講義をいただきました。
- ④ 講師派遣事業として、市民グループ等の要請に応じて、講座等へ職員を講師として派遣し、市史編さん活動事業の啓発を図りました。
  - ・H20.5.24 流山史跡探訪友の会 諏訪神社・成願寺について講義
  - ・H20.11.9 明治大学校友会 流山旧市街史跡案内
  - ・H20.11.22 流山史跡探訪友の会 東福寺・千仏堂について講義
- ⑤ 資料の収集・保管事業として、市内外旧家の資史料所在調査の実施及び、館内古文書の解説並びにデータベース化を継続して実施しております。新規収集資料は荒木家文書(流山)116点を寄贈いただき、記載内容は大杉神社に関するものであり、整理を終えたところであります。20年度の整理状況は、館内古文書総点数 22,546点うち7,551点の解説を終えております。
- ⑥ その他として審議会の意見として
  - ・史料のデータベース化
  - ・文書史料の損失を防ぐための処置等について
  - ・流山と無関係な古文書等の取扱いについて

以上の点が委員からの意見として記載させていただきました。

以上で平成20年度事業報告を終了します。

(会長)

只今、事務局より説明のありました平成20年度市史編さん事業報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

特になし 了承

(会長)

特に意見はないようですので、事業報告については了承ということで、次の議題に入りたいと思います。

(会長)

議題(2)平成21年度市史編さん事業計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

#### 平成21年度の市史編さん事業計画

- ①市史編さん審議会ですが本日を1回目として、年間3回を適宜に開催させていただく予定であります。
- ②市史編集委員会は第1回目の会議を5月22日(金)に開催いたしております。議題といたしましては、「原始・古代」と「中世」の原稿についてと近世・近現代の章立てについて、今後の事業の進め方について検討いたしております。
- ③古文書講座でございますが、収蔵する古文書をテキストに使用し、日本史と流山史の時代背景を解説し、文字解読の楽しさを理解することを目的に開催いたします。  
今年度におきましては、平成22年2月7日(日)・平成22年2月21日(日)・平成22年3月7日(日)・平成22年3月21日(日)の4回で、講師には東京都公文書館非常勤職員 高尾善希氏をお招きします。
- ④講師派遣事業は市民グループ等の要請に応じて、史跡めぐり、講座等へ職員を講師として派遣し、市史編さん活動事業の啓発を通年で実施します。
- ⑤資料の収集・保管事業も継続、通年でございます。市内外旧家の資料所在調査の実施及び、館内古文書の解読並びにデータベース化を実施します。
- ⑥市史等刊行については、市史研究21号は、原稿についての照会が1件のみありました。原稿が集まった状況で刊行する予定であり、現在も原稿の募集を行っているところでございます。『流山の歴史』は平成21年度刊行予定ではありますが、編集委員会での指摘、それに伴う原稿の修正と執筆作業を行っておりますが、作業が予定よ

りも遅れており、年度内の刊行は難しい状況にあります。

以上、21年度の事業計画の説明でございます。

(会長)

只今、事務局より説明のありました平成21年度市史編さん事業計画について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

市史研究21号について、出版への照会は1件だけであるのは残念である。基本は隔年で刊行していただきたいが、内容が伴ったものを出すことが重要であり、隔年刊行にこだわらずに進めていくべきである。

(会長)

市史研究は、内容の確保は当然必要であると思う。  
他に意見はございますか。

(委員)

収集保管事業について。来年利根運河が通水120年になり、企画展の話も聞いているが、どういう状況なのか。運河関係の新しい史料発見に努めてほしい。

(館長)

利根運河の企画展は関宿城博物館、野田市郷土博物館、流山の3館共同で開催する準備を進めているところである。新規の史料については、友の会など関係団体からの情報が入っており、鋭意収集に努めたい。

(委員)

企画展の開催時期はいつごろなのか。

(事務局)

平成22年10月頃を予定しております。

(委員)

各館の予算配分はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

予算は各館ごと独自で行い、ほぼ同時期に3館で行います。各館ごとにテーマを決めて実施いたします。

(委員)

企画展の図録はどのようなになっているのか。

(事務局)

各館独自で刊行し、他館でも販売するよう調整中です。

(委員)

古文書入門講座について。受講者数が当初45名だったのが最終回には30名に減っている。講座の対象者は全く読めない人か又は少しは読める人を対象としたものどちらなのか。

今年の内容は魅力的であるが初心者には難しいと思われるが、どのように考えているのか。

(事務局)

基本的には初心者を対象としている。講座に参加された方には内容が難しく捉えた方もいらっしゃることは事実で、そのため参加者が減っていったと判断している。

読解講座は、古文書に関して多くの人に参加してもらい広く周知していくことが主旨と考えている。

(委員)

講座の形態は、前年度を継続する形で今年度の企画をしているのでしょうか。

(事務局)

継続性は考えていませんし、読める人を条件として設定していません。あくまでも初心者を対象しております。

(委員)

古文書に対しての理解を深めてもらうという点では、初心者コースだけでなく、第2・第3のステップができる講座を用意すべきであると考えます。

(事務局)

貴重なご意見として、今後検討していきたいと思っております。

(委員)

編集委員会の議事録について伺いたい。議事録中での「原始・古代部分の簡素化すぎる点」、「専門用語使い方」、「貝塚の項目」についての指摘された内容について具体的に説明していただきたい。

(館長)

第1の「簡素化」についてですが、文章の内容が日本史全体のことが中心となっており、もっと「流山の特徴のある遺跡について取り上げていく必要がある」とのご指摘をうけております。

第2に「専門用語の使い方」ですが、文章の表現をできるだけわかりやすいものという方向で行っているため、その中での「専門用語の位置づけをはっきりさせておいたほうがよい」との指摘を受けております。

第3に「貝塚の項目」では、流山の貝塚の売り（特徴）をもっと出すべきではないか。具体的に言いますと三輪野山貝塚や上新宿貝塚などの特徴やそれぞれの遺跡の内容等がわかるようにしたほうがよいという指摘でございます。

(会長)

「流山の歴史」の対象年齢はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

中学生以上が理解できるわかりやすいものを目指しております。

(委員)

事務局からの報告では、今年度内の刊行は難しいというところであるが。

(事務局)

当初は、平成21年度に刊行し、事業終了という予定であったが、編集委員会の査読などによって、修正すべき点が多くあること、その後の執筆が進んでいないのが現状である。

(委員)

本のタイトルは決まっているのか。まだであるならば、子どもたちにも引きつけるタイトルにする必要があると思われる。

(事務局)

「流山の歴史」は仮タイトルである。今後決めていきたい。

(委員)

本の刊行はマニュアル的に進めるのではなく、十分に内容・題も検討されるべきではないか。

(会長)

本文の内容は流山のことに限定したものなのか。

(館長)

現在の行政区分には捉われるものではないと考えています。

(会長)

このほか、ご意見はございませんか。

ないようですので、次の議題、その他についてなにかございますか。

(事務局)

次回の審議会の開催予定ですが、編集委員会を年内に、古文書講座を2月から3月にかけて開催いたします。また生涯学習策定や後期事業計画との位置づけの決定等を踏まえて1～3月頃に開催したい。

(議長)

では1月から3月頃に会議を開催するというところでよろしいでしょうか。

他に無いようですので、平成21年度第1回流山市史編さん審議会を終了といたします。

長時間のご審議ありがとうございました。

会議終了後、第2回企画展「ちょっと昔のくらし」を見学。